

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した体験学習



川の生物を観察する児童たち

11月21日(木)、養老小学校の児童が、令和元年度の「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、森と木と水の環境教育推進事業の一環として河川環境楽園(自然発見館、アクア・トトぎふ)で体験学習を行いました。

川にすむ生き物や河川の様子を観察し、講話を聴くことで、私たちの生活と環境との関わりについて理解を深めました。学習を終えた児童は、「絶滅危惧種という、とても数が少なくなっている生き物があるので、そういう生き物がいなくならないよう、環境を守っていきたい。」と感想を述べていました。

中学生が町に提案

11月26日(火)、町議会にて子ども議会が開催され、高田中学校および東部中学校の生徒や教諭、役場関係者等が参加しました。

この取り組みは、町のふるさと教育・主権者教育の集大成として平成29年度から行われており、議長や議員役を生徒が担い、自らの調査研究結果を基に、地域活性化策など、さまざまなテーマで町への提案を行いました。

議長を務めた田中修史さん(高田中3年)と成願太治さん(東部中3年)は「町の未来を担う若者として、自分たちができることを大切にし、町の活動や発展に積極的に参加していきたい。」と議会の感想を述べていました。



さまざまな提案を行う生徒たち

これからの養老町を考える

11月30日(土)、12月7日(土)、21日(土)、町役場でまちづくりワークショップが行われました。

このワークショップは、「(仮称)養老町まちづくりビジョン」の策定に向け、地域の課題などを整理し、課題解決策等の意見交換をするもので、地域住民や大垣養老高校の生徒が参加しました。

参加者たちは、6つのグループに分かれ、思い描く町の未来に向け、どのような取り組みが必要かを話し合いました。



町の将来像について発表する参加者

令和改元記念植樹式

12月7日(土)、養老の滝駐車場で、「養老桜・紅葉の山プロジェクト」の一環として、令和改元記念植樹式が開催されました。

これは、令和という新しい時代を担う子どもたちが、養老山地の木々とともに健やかに力強く育つことを祈念して開催されたものです。

当日、令和元年5月に誕生した赤ちゃんとその保護者4組が参加し、その中から5月1日生まれの子栗田美渚さん(有尾)と同2日生まれの子伊藤航佑さん(大巻)、それぞれのお父さんが、大橋孝町長、村下貴夫県議会議員とともに植樹を行いました。



桜の苗木を植える参加者たち